

1 自己評価

I 評価結果
(別紙参照)

II 分析・改善方策

- 目標設定の際に昨年度の状況が見えるよう、教育活動計画の表の枠を工夫すべきだ。
- 進路指導について、特に国公立大学の進学者数についての目標に対する達成基準は、単純に合格者数ではなく、プロセス(目標達成に向けた指導)を目標とすべきだ。
- 地域との連携と保護者・地域への情報発信については今後も継続することが大切だ。

2 学校関係者評価委員名

中村 政弘 (株式会社オーエヌ工業社長)
沼 泰弘 (つやま産業支援センター事務局長)
居原田 洋子 (美作大学短期大学部幼児教育学科長)
真木 茂 (同窓会副会長)
清水 誠治 (PTA会長)

3 学校関係者評価

- 学校経営目標の達成に向けての具体的な取組として概ね達成された状況が多く、先生方には日々の教育活動においてよく努力してもらっている。
- 昨年度の達成状況を見て次年度の目標設定ができるよう、教育活動計画の表の枠を工夫してはどうか。
- あいさつ運動の目標としては、挨拶できる生徒100%の達成が望ましいのかもしれないが、挨拶については社会人になってから企業でも指導していることであり、押しつけるわけにもいかず100%というのは難しいのではないか、ある程度許容範囲を持って適切な目標設定が必要ではないか。
- 最終評価ということではあるが、「a・b・c」を評価する基準が曖昧であるため、もう少しわかりやすくしてはどうか。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- 学校運営協議会の設立と充実によりさらなる連携力の強化。
- 服装・頭髪指導、現状を踏まえた遅刻・欠席への指導の充実。
- 地域と連携した魅力ある授業づくりと進路指導の充実の推進。
- 科横断型「課題研究」の工夫によるPBLの充実。